



から帰った後に宿題を終わらせて参加しなければいけません。また、水泳部にも所属しているため部活動後に棒踊りの練習をすることもあるのが大変です。棒踊りには、文字通り棒を打ち鳴らす踊りもあるので、ミスが相手へのけがにつ

ながってしまいうこともあり、気が抜けません。しかし、岩戸神社への奉納や大始良町の夏祭りステージで、最後まで間違うことなく踊れた時は達成感があります。また、見てくれる人たちが楽しんでくれる姿もとてもうれしいです。今年度高校受験を控えており、勉強との両立が大変ですが、これからも棒踊りを続けていきます。



放課後は 別の顔

鹿屋東中学校
たなか かいり
田中 迦竜 さん(3年生)

イラストやゲーム、読書が趣味で、クラスでは副総務(副学級委員長)を務める。両親や祖父が飲食関係の仕事をしていることに影響され、進学先は調理科を希望している。



私は寿に家があるのですが、親戚が大始良町に住んでおり「大始良西方棒踊りをしてみないか」と誘いがあったことがきっかけで、小学4年生頃から参加しています。練習は不定期で、学校



昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



タイム トラベル ～温故知新～

14話

市内初の信号機



▲北田交差点は、後の昭和47年に県内初のスクランブル交差点となる

車の流れをスムーズにするために、交差点に設置される「信号機」。日本でのその歴史は、昭和5年に東京の日比谷交差点で始まりました。それまでは交通を制御するものが何もない交差点が一般的で、交通量が多い場所は警察官が手信号や表示板で交通整理を行っていました。市内初となる信号機は、昭和



令和3年度末時点で国内には約20万か所の交差点等に信号機があり、鹿児島県には約3,000か所、鹿屋市内は現在201か所に信号機が設置されています。省エネルギー化やメンテナンス性などの観点から灯火器のLED化が進められ、現在、市内の半数以上の信号機がLED式に交換されています。目にすることは多いですが、なかなか観察することがない信号機。メーカーや役割によって細部に違いがありますので、待ち時間にでもよく観察してみたいかがでしょうか。



▲導入当時の写真。灯火器を目立たせるために編模様の背面版が取り付けられている

33年8月12日に北田交差点に設置されました。それまで県内で信号機があるのは鹿児島市だけで、当時の市報には信号の色の意味や変わる順番などのルールが事細かに記されており、いかに信号機が馴染みのない存在だったかがうかがえます。